

2005.6.5.(日)

於総合地球環境学研究所 太湖流域漁民の世界とデルタ調査の可能性
文献史料と現地調査からのアプローチ

兵庫県立大学
太田 出

0 2004年度夏季・冬季江南デルタ調査

これまで研究してきたこと 清代江南デルタの地域社会(市鎮を中核とし後背地農村を含む)と犯罪
拙稿「清代江南デルタ社会と犯罪取締りの変遷 労働力の流入、犯罪、そして暴力装置」(岩井茂樹編『中国近世社会の秩序形成』京都大学人文科学研究所、pp.331-360.、所収)
清代の? 案・政書・地方志等:ほとんど記載なし
太湖漁民=潜在的犯罪者 「漁匪」「漁船盗賊」 漁民の疑似保甲編成 なぜ漁民はそのように描かれたか?

濱島敦俊・片山剛『華中・南デルタ農村実地調査報告書』(大阪大学文学部紀要・第34巻、1994年)
デルタ地域の開発と移住、人口飽和と商業化という図式において、デルタ農村社会の構造と変動を確認する
村落・戸口・移住・農業・水利・商工業・漁業・信仰・宗族・地方志・民間伝説などについて調査
森正夫編『江南デルタ市鎮研究 歴史学と地理学からの接近』(名古屋大学出版会、1992年)
上海市青浦県朱家角鎮・同市宝山区羅店鎮など多数の市鎮を対象として調査
過去は市鎮、現在は小城鎮と呼ばれる農村部の都市的聚落こそが明清時代~近代と今日における江南デルタの先進性を支えてきたのではないかとの仮説を検証すべく、歴史学と地理学との共同作業として市鎮の歴史、地理・生態環境、領導層、裁判・調停、市場に関する調査を進めた
可児弘明『香港の水上居民 中国社会史の断面』(岩波新書、1970年) 蛋民に関する初の本格的な研究

科学研究費補助金(基盤研究B1)研究・研究課題名「清末民国期、江南デルタ市鎮社会の構造的変動と地方文献に関する基礎的研究」(平成16年度~平成18年度、2004年~2006年、課題番号16320098)
本研究課題の目的は、清末民国期、江南デルタ市鎮社会の構造的変動を、県・市鎮レベルで発行された「地方文献(地方新聞・地方? 案・郷土史料)」を用いながら内在的な視点で捉え直すことに在る
方法的には「地方文献」を主とし「現地調査(聴取調査)」で補充する
蘇州・呉江・青浦・嘉善など汾湖周辺地域(江南デルタ低郷)を中心に調査中

人文・社会科学振興プロジェクト(研究領域4-2)「社会制度の持続性に関する学融合的研究」
社会制度 交易 中国
近現代中国 漁民 漁業村・水産村 社会主義的改造(漁改) 魚行(鮮魚行・咸魚行)

新地方志の利用と調査の手がかり

近年の新地方志編纂 鎮志における漁業村・水産村及び漁業経済に関する記載

『蘆墟鎮志』(蘆墟鎮志編纂委員会、上海、上海社会科学院出版社、2004年)、第一巻地理/第一章建置区画(p.75.)
漁業村 漁業村は太浦河南岸鎮東郊の卒昂?の上に位置し、西は槐字港に臨み、南北は環鎮公路である。総人口は896人で、村?公室は牛舌頭湾のもと天主教堂旧址に在り、6つの村民小組が設けられている。
50年代、当地の漁民を組織して?塔公社捕撈大隊を設立させた。1964年4月、蘆墟公社成立以後、?塔公社内の栄字村を中心とする漁民もこれに随って蘆墟公社に帰属し、捕撈大隊を組織した。該村の漁民はかつては船上生活を行っていたが、1969年冬、公社が大渠蕩を壟壟した後、30戸以上の漁民に南岸に搭棚居住、或いは漁船を岸に上げ居住させ、蕩田で水稻耕作させた。しかし、蕩田の土質は重塩漬土に属し、作物・野草はみな生長しにくかったため、漁民は続々と離れていった。70年代初、青平公路両側・北壩港付近を選んで家屋を建設し、続々と定居した。1983年に漁業村と改称した。1994年に中保里以北に新村を重建したので、漁民は続々と現在の場所へと遷移した。
漁業村は1996年1月に省級衛生村となった。工業企業は通迅電纜附件廠を主となし、2000年の村?工業の生産高は712萬元、村の経済的総収入は2350萬元、平均収入5759元であった。

『青浦県志』(上海市青浦県志編纂委員会、上海人民出版社、1990年)、第十四篇商業/淡水産品收購(p.372.)

淡水産品收購 解放前、城廂・朱家角・練塘・金沢・白鶴・重固の6鎮には27家の魚行があり、方家壩には1つの魚市場があって、本県と江浙の漁船の集散点となっており、水産品の大部分は上海市区へと運搬される。

『北? 鎮志』(吳江市北? 鎮地方志編纂委員会、上海、文匯出版社、2003年) 第六卷商業 / 第三章商品流通 (p.188.)
水産品 解放前、漁民はみな「連家漁船」を為し、分散して活動し、捕撈の水産品には魚・蝦・蟹・鰻や貝類等があった。北? 鎮の朱大昌魚行は、一つの氷廠を自ら建設し、活水運銷船二隻を自ら有し、水産品の收購市場を全面的に壟断した。漁民はただ少量の余剰の鮮魚を当地の市場で売るにすぎなかった。

『南潯鎮志』(南潯鎮志編纂委員会、上海科学技術文献出版社、1995年) 第二篇經濟 / 第三章商業 (pp.138-139.)
水産品 抗日戦争前、南潯には鮮魚行6家、鮮魚店10家、咸魚行3家があった。規模の規格的大きなものには、淡水魚を専門的に扱う衡盛魚行があり、また咸魚・咸肉・海鮮を扱う恒大・太亨・福泰・恒泰などの? ? 号、さらに魚の小売店や零細な露天商があった。衡潤魚行は天然氷を兼営していたが、その後氷廠を独立させ、豊潤氷廠と名づけた。南潯が陥った期間は、少なからぬ魚行が停業に追い込まれた。解放初期、淡水魚を扱うものには衡潤・蔡公達・天順・正大・同仁などの魚行(魚点) 海産品と? ? 製品を扱うものは友聯・協記・義記などの? ? 号や三友・恒泰などの咸魚店があった。

地方文献

清末民国期のみならず現代までも視野に入れながら地方文献にこだわり収集・分析する。各県・市鎮で出版された地方新聞、清末・国民党・解放後の地方? 案、公報・県政等地方政府発行の雑誌、国民党期に調査・作成された地図・調査報告書、地方エリート層の残した日記類、等々。

なぜ、かかる地方文献にこだわるか? 地方文献から何が見えてくるか?

明清時代～民国期の漁民関連文献は甚少。江南デルタを定住農民の世界と非定住の漁民の世界と考えた場合、漁民・漁業研究は不可欠。

民国期の太湖漁民と漁会・魚行等 青浦県? 案館蔵

『〔青浦県〕漁会會員名冊』(民国35年9月)

「漁業法・漁業法施行規則合訂(民国36年5月)」「青浦會員名冊」「珠街閣會員名冊」「陸・? ・捌区會員名冊」「金沢會員名冊」「老宅會員名冊」「練塘會員名冊」「陳坊橋會員名冊」「楊字? 會員名冊」「雜戸」に分類・整理

『〔青浦県〕漁会公会文叢』(民国35年11月18日～)

漁業登記・漁? ・蝦簾・魚苗等の処理に関する文件

『〔青浦県〕漁会及漁民管理』(民国36年10月23日)

「本県境内漁民一律参加県漁会」「漁戸捕捉権仍照戦前成例? 理」等に関する文件

『〔青浦県〕魚行商業同業公会』(民国33年7月～)

解放後の太湖漁民 蘇州方志編纂館蔵

『太湖漁業史』(内部発行、1986年)

『江蘇省太湖漁業生産管理委員会成立30周年 1964年5月至1994年5月』(内部発行、1994年)

『太湖基本情況匯編』(江蘇省太湖漁管会、1982年元月)

『全太湖漁業生産統計匯編』(太湖漁管会、太湖水産増殖基地、1980年)

『吳県太湖公社漁業生産統計手冊』(吳県太湖人民公社、1982年1月)

『太? 漁業公社大事紀』(太? 志編纂組、1982年12月)

『無錫市太湖漁業公社志』(漁業公社編写組、1982年12月)

『太湖郷志』(吳県太湖郷志編纂組、1985年)

現地調査

今回の研究課題では地方文献を調査し、そこから得られる情報を分析・読解していく事に力点が置かれるが、漁民については十分な情報が得られぬ場合が少なくない。そのため現地調査を併用していくことにしたい。地方文献で手に入れ

た知識を基礎に、実際に現地踏査し、老漁民を中心とする現地住民から聴取を実施することで、漁民の世界を描出した
い。

太湖漁民の信仰調査

嘉興市嘉善県王江涇鎮民主村 蓮泗蕩・劉承忠紀念館（劉王廟）

濱島敦俊『総管信仰』で有名。江南の土神・劉錡（普佑上天王、全国神・驅蝗神の劉承忠に）を祀る。
糧長層から小農民、そして漁民の信仰へ

光緒 閩川志稿』巻二、祠廟

劉王廟、一在西方庵。乾隆中、遷瑞華庵之西北、經乱燬。一在連四蕩東北濱 礼部則例、神姓劉名承忠。
元時官指揮為民驅蝗。元亡自沈於河、世称劉猛將軍。…… 吾郷俗伝、正月二十日開印、八月十四日誕辰、
期届江浙漁船咸集蕩中、以数万計、演戲献牲。至二三月之交、船之集尤多、謂之網船会。

網船会 清明節（農曆2月27日） 今年4月5日（火）

4月3日（日） 農民中心（漁民もあり）の参拝

「嘉興南六房老長生分会」：吳江市八？鎮漁業村劉小羊 劉王（劉承忠）の子孫を称する

4月6日（水） 漁民中心の参拝

「太湖公義長生社」：吳江市七都鎮捕撈村

「太湖興隆社」：吳江市廟港鎮漁業村

太湖漁民の採訪

α 吳江市蘆墟鎮西柵：沈毛頭氏採訪

9月6日 張舫瀾（郷土史家）氏の紹介で狐仙廟（大仙廟）で行われた宣卷・賛神歌を見学

午後：沈毛頭氏（58歳）賛神歌・採訪、讚神歌（猛將神歌）の収録

沈氏等は漁民。来年、太湖漁民の劉王信仰について聴取の予定

β 吳江市七都鎮沈家湾村漁業社区：居民委員会採訪

9月26日 劉王廟の？額に七都鎮漁業村の住民が奉納したものが見られたため訪問

午後：七都鎮下の3つの漁業村の概況について聴取

「關於吳江市七都鎮沈家湾村（原漁業村）土地問題的調查情況公示書」（2004年5月19日、吳江市七都鎮人民政府）は、解放後の漁民の上陸・定居ための「囲墾」を考える手がかりに

χ 吳江市七都鎮捕撈村：李祥弟氏採訪

9月26日 七都鎮下の漁業村の一つ＝捕撈村で聴取

漁民・李祥弟氏（55歳）を氏自身の船（家船）上で聴取

履歴のほか、漁民の打魚・養魚、収入、婚姻、漁業権（漁政站発行の漁業〔捕撈〕？）等

δ 吳江市七都鎮廟港漁業社区：張興貴氏採訪

9月26日 七都鎮下の漁業村の一つ＝廟港漁業社区で聴取

漁民・張興貴族氏（58歳）から聴取

履歴のほか、漁民の打魚・養魚、収入、婚姻、信仰等

ε 嘉興市嘉善県干窑鎮南亩村村民委員会：副主任李剛氏採訪

9月27日 劉王廟廟会で知り合った漁民の村で李剛氏（29歳）から聴取

履歴のほか、南亩村・漁業村合併の状況、漁民の打魚・養魚、祖籍、収入、婚姻、信仰等

廟会には「社」と呼ばれる香会を組織していく 次回、この「会」の組織人から聴取の予定

φ 吳江市黎里鎮北？漁民村村民委員会：会計任鋒氏採訪

9月28日 北？漁民村村民委員会会計の任鋒氏（28歳）から聴取

履歴のほか、漁民の打魚・養魚、移住、収入、漁業権（漁政局発行の捕撈漁業証）、婚姻、信仰等